湘南工科大学附属高等学校

令和四年度　オープン入学試験問題

国　語

□部分がマークシート方式により解答する解答欄です。

マーク上の注意事項

1　HB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って、◯の中を正確に塗りつぶすこと。

2　答えを直すときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

3　決められた欄以外にマークしたり、記入したりしないこと。

良い例	悪い例
●	線　小さい　はみ出し 丸囲み　レ点　うすい

一　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（作問の都合上、本文を改めたところがあります。）

温暖化対策として、あなたは、なにかしているだろうか。レジ袋削減のために、エコバッグを買った？ペットボトル入り飲料を買わないようにマイボトルを持ち歩いている？ 車をハイブリッドカーにした？

はっきり言おう。その善意だけなら無意味に終わる。それどころか、A その善意は有害でさえある。

なぜだろうか。温暖化対策をしていると思い込むことで、真に必要とされているもっと大胆なアクションを起こさなくなってしまうからだ。良心の呵責（かしゃく）から逃れ、現実の危機から目を背けることを許す「免罪符」として機能する消費行動は、資本の側が環境配慮を装って私たちを欺くグリーン・ウォッシュにいとも簡単に取り込まれてしまう。

［　a　］、国連が掲げ、各国政府も大企業も推進する「ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）」なら地球全体の環境を変えていくことができるだろうか。いや、B それもやはりうまくいかない。政府や企業がＳＤＧｓの行動指針をいくつかなぞったところで、気候変動は止められないのだ。ＳＤＧｓはアリバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない。

［　b　］、マルクスは、資本主義の辛い現実が引き起こす苦悩を和らげる「宗教」を「大衆のアヘン」だと批判した。ＳＤＧｓはまさに現代版「大衆のアヘン」である。アヘンに逃げ込むことなく、直視しなくてはならない現実は、C 私たち人間が地球のあり方を取り返しのつかないほど大きく変えてしまっているということだ。

人類の経済活動が地球に与えた影響があまりに大きいため、ノーベル化学賞受賞者のパウル・クルッツェンは、地質学的に見て、地球は新たな年代に突入したと言い、それを「人新世」(Anthropocene)と名付けた。人間たちの活動の痕跡が、地球の表面を覆いつくした年代という意味である。

実際、ビル、工場、道路、農地、ダムなどが地表を埋めつくし、海洋にはマイクロ・プラスチックが大量に浮遊している。人工物が地球を大きく変えているのだ。とりわけそのなかでも、人類の活動によって飛躍的に増大しているのが、大気中の二酸化炭素である。

ご存じのとおり、二酸化炭素は温室効果ガスのひとつだ。温室効果ガスが地表から放射された熱を吸収し、大気は暖まっていく。その温室効果のおかげで、地球は、人間が暮らしていける気温に保たれてきた。

［ c ］、産業革命以降、人間は石炭や石油などの化石燃料を大量に使用し、膨大な二酸化炭素を排出するようになった。産業革命以前には二八〇ｐｐｍであった大気中の二酸化炭素濃度が、ついに二〇一六年には、南極でも四〇〇ｐｐｍを超えてしまった。これは四〇〇万年ぶりのことだという。そして、その値は、今この瞬間も増え続けている。

四〇〇万年前の「鮮新世」の平均気温は現在よりも二～三℃高く、南極やグリーンランドの氷床は融解しており、海面は最低でも六ｍ高かったという。なかには一〇～二〇ｍほど高かったとする研究もある。

「人新世」の気候変動も、当時と同じような状況に地球環境を近づけていくのだろうか。人類が築いてきた文明が、存続の危機に直面しているのは間違いない。

近代化による経済成長は、豊かな生活を約束していたはずだった。ところが、「人新世」の環境危機によって明らかになりつつあるのは、[D]皮肉なことに、まさに経済成長が、人類の繁栄の基盤を切り崩しつつあるという事実である。

気候変動が急激に進んでも、超富裕層は、これまでどおりの放埒（ほうらつ）な生活を続けることができるかもしれない。しかし、私たち庶民のほとんどは、これまでの暮らしを失い、どう生き延びるのかを必死で探ることになる。

そのような事態を避けるためには、政治家や専門家だけに危機対応を任せていてはならない。「人任せ」では、超富裕層が優遇されるだけだろう。だからより良い未来を選択するためには、市民の一人ひとりが当事者として立ち上がり、声を上げ、行動しなければならないのだ。そうはいっても、ただ闇雲に声を上げるだけでは貴重な時間を浪費してしまう。正しい方向を目指すのが肝腎となる。

この正しい方向を突き止めるためには、気候危機の原因にまでさかのぼる必要がある。その原因の鍵を握るのが、資本主義にほかならない。なぜなら二酸化炭素の排出量が大きく増え始めたのは、産業革命以降、つまり資本主義が本格的に始動して

以来のことだからだ。

（　中略　）

「人新世」の資本主義と環境危機の関係を分析するにあたって、まずは、グローバル・サウスに目を向けてみよう。[E]グローバル・サウスとは、グローバル化によって被害を受ける領域ならびにその住民を指す。グローバル・サウスの抱える問題は、以前なら「南北問題」と呼ばれていた事態だ。ただ、新興国の台頭や、先進国への移民増大によって、「南北」格差は地理的位置との関係が必然ではなくなりつつある。そのため、本書では、グローバル・サウスという言葉を使いたい。

ともかく、旧来の南北問題も含め、資本主義の歴史を振り返れば、先進国における豊かな生活の裏側では、さまざまな悲劇が繰り返されてきた。いわば、[F]資本主義の矛盾がグローバル・サウスに凝縮されているのである。

近年の大きな事件に絞ってみても、イギリスのBP社が引き起こしたメキシコ湾原油流出事故、多国籍アグリビジネスが乱開発を進めるアマゾン熱帯雨林での火災、商船三井が運航する貨物船のモーリシャス沖重油流出事故など［　X　］。

被害の規模も大きい。二〇一九年に起きたブラジル・ブルマジーニョ尾鉱ダムの決壊事故では二五〇人以上が死亡した。このダムは、資源三大メジャーのひとつであるヴァーレ社の所有で、鉄鉱石の尾鉱（選鉱の際に生じる水と鉱物の混ざったスライム状の廃棄物）を貯（た）めておくダムであった。

ヴァーレ社は二〇一五年にも同様の事故を、別のダムで起こしていたが、今回もずさんな管理によって決壊事故を引き起こし、数百万トンの泥流が近くの集落を一気に呑（の）み込んだのだ。尾鉱があたり一面にぶちまけられることで、河川は汚染され、生態系も深刻なダメージを負った。

これらの事故は単なる「不運な」出来事なのだろうか。いや、そうではない。事故が起こる危険性は、専門家や労働者、住

民たちによって繰り返し指摘されてきた。それにもかかわらず、国や企業はコストカットを優先して、有効な対策を取らず放置してきたのである。これらは、起こるべくして起きた「人災」なのだ。

そうはいっても、遠く離れたメキシコやブラジルで起きた事故など、日本人の関心は及ばないかもしれない。自分にはまったく関係ないと思う読者もいるだろう。だが、この「人災」に、G私たち日本人も、間違いなく加担してきた。

自動車の鉄、ガソリン、洋服の綿花、牛丼の牛肉にしても、その「遠い」ところから日本に届く。グローバル・サウスからの労働力の搾取と自然資源の収奪なしに、私たちの豊かな生活は不可能だからである。

（斉藤幸平『人新世の「資本論」』）

注　グリーン・ウォッシュ…環境に配慮しているように装い、ごまかすこと。
　　アヘン　　…麻薬の一種で、鎮痛・催眠作用がある。
　　パウル・クルッツェン…オランダの大気化学学者。ノーベル化学賞受賞者。
　　放埒　　…気ままに振る舞って、しまりのないこと。
　　アグリビジネス　　…農業に関する経済活動。

問一　傍線部A「その善意は有害でさえある」とありますが、なぜですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　温暖化対策と言われているものの多くは無意味で実際には役に立たないものばかりだから。
2　温暖化対策は中途半端に行うと、その反動でかえって環境破壊が引き起こされてしまうから。
3　温暖化対策を行おうという人は人によく思われたいからするのであり、環境のことを考えているわけではないから。
4　温暖化対策のために役に立つことをしていると思うことで現実の危機から目を背けてしまうから。

問二　空欄［a］～［c］に入れる語として最も適するものをそれぞれ選び、マークしなさい。ただし、同じ語が二ヵ所に入ることはありません。

1　かつて　　2　ところが　　3　では

問三　傍線部B「それもやはりうまくいかない」とありますが、なぜですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　政府や企業は自分たちの利益にならない気候変動対策に、真剣に取り組んで解決しようとはしないから。

2　気候変動はどうにもならないところまで進み、政府や企業、国民が力を合わせても止められないものだから。

3　取り組む姿勢を示すだけで、直視しなくてはいけない現実から目をそらせる役割しか果たさないから。

4　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の設定基準は、環境自体が流動的なため、曖昧なものになりがちだから。

問四　傍線部C「私たち人間が地球のあり方を取り返しのつかないほど大きく変えてしまっている」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　地表を様々な建造物が覆い、海中でも大気中でも、地球の表面を人類の経済活動の痕跡が覆い尽くしてしまった、ということ。

2　温室効果ガスが地上を覆い温暖化が進み、人間にとっては住みやすくても他の生物の生態系には変化が出てしまった、ということ。

3　回収しきれない量のマイクロプラスチックが海洋に大量に浮遊するなど、海の動植物たちに大きな影響が出てしまった、ということ。

4　産業革命以降に大量に排出された二酸化炭素が現在でも増え続け、南極やグリーンランドの氷床を融解させてしまった、ということ。

問五　傍線部D「皮肉なことに」とありますが、どのようなことが皮肉なのですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　人々の生活を豊かにすると信じられていた経済成長が人類の文明の存続の危機の原因になっていること。

2　豊かな生活を約束していたはずの経済成長に限界が来て、これ以上の発展が期待できなくなっていること。

3　人々の幸福を担っていた経済成長は、それが進むにつれて人々の貧富の差を大きくしているということ。

4　環境危機は経済成長が進むことによって、いずれは解消されると信じられていること。

問六　傍線部E「グローバル・サウス」とは何ですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　西洋を中心として工業発展をしてきた北側に対して、農産物を世界に供給してきた南側と呼ばれていた国々が、グローバル化が進み一つの大きな地域になったもの。

2　グローバル化が進み、先進国と発展途上国の区別がなくなってきたので、改めて現状の富の偏り具合に合わせて、豊かな国を北、貧しい国を南と区分けしたもの。

3　貧富の差を地理的関係の南北で分けて考えにくくなった現代において、グローバル化のために先進国の発展の被害を受けている貧しい地域のこと。

4　地理的に南にあるのではなく、長い年月をかけて先進国から搾取され続け、グローバル化から取り残され、経済発展する可能性が奪われてしまっている地域のこと。

問七　傍線部F「資本主義の矛盾がグローバル・サウスに凝縮されている」とありますが、なぜですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　資本主義という考え方は先進国が作り世界に広めたものなので、グローバル・サウスの人たちにとってはそれを受け入れることは、自分たちの文化を失うことになるから。

2　資本主義は資本を持つもののためのシステムなので、労働力を供給するグローバル・サウスの人たちが豊かになるには、自分たちも資本家になる必要があるから。

3　資本主義は経済発展によって一部の国の人が豊かになることを目指しているものなので、安い賃金による労働を提供するグローバル・サウスの人たちの犠牲は当たり前だから。

4　資本主義による経済成長は人々の生活を豊かにするはずのものなのに、グローバル・サウスの人たちは、資本主義が進んでも幸せになっていないから。

問八　空欄 X に入れる語句として最も適するものを次の中から選び、番号をマークしなさい。

1　枚挙にいとまがない
2　累を及ぼす
3　及びもつかない
4　芋を洗うようである

問九　傍線部G「私たち日本人も、間違いなく加担してきた」とありますが、なぜそのようにしてきたのですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1　日本人が豊かな生活を送るためには、グローバル・サウスの地域から労働力を搾取し、自然資源を収奪することが必要だから。
2　かつて貧しかった日本人が戦後経済発展を続ける中で、グローバル・サウスの地域からの移民に頼ることが多かったから。
3　豊かに暮らす日本人もさらに豊かになることを求め、貧しい国に住む人たちの生活には無関心であるから。
4　グローバル・サウスの地域で作られた製品や食品を安く手に入れることによって、グローバル・サウスの人たちの経済が守られているから。

問十　次の各文のうち、本文の内容に合うものには1を、合わないものには2をそれぞれマークしなさい。

A　二酸化炭素は温室効果ガスの一つであるが、温室効果ガスが大気を暖めるために、地球は人類が暮らしていける気温に保たれてきた。
B　四〇〇万年前の「鮮新世」のころ、南極やグリーンランドの氷床は融解し、海面も現在より高かったとする研究には疑わ

しい点がある。

C　気候変動が急激に進むと、超富裕層はこれまで通りの生活を続けることができるかもしれないが、私たち庶民はこれまでの暮らしを失う可能性がある。

D　政治家や専門家は超富裕層を優遇することが考えられるため、彼らに任せきりにせず、市民の一人ひとりが当事者として行動し、よりよい未来を目指さなくてはいけない。

E　二〇一九年に起きたブラジル・ブルマジーニョ尾鉱ダムの決壊事故では、二五〇人以上が死亡したが、この事故によって先進国の環境に対する関心が高まるようになった。

F　尾鉱ダムの決壊のような事故は単なる「不運な」出来事ではなく、起こるべくして起きた人災である。

二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（作問の都合上、本文を改めたところがあります。）

源頼信は東国から優れた馬を手に入れたが、その馬を盗もうと狙っている盗人がいた。頼信の子頼義は、その馬を父からもらい受けたいと思い、父を訪ねた。「明るい所でその馬を見て、気に入ったら持って行け。」と頼信は言い、今は夜も更けているので、翌朝その馬を見ようと、その晩は泊まることにした。その晩のうちに盗人が馬を盗み、逃げていった。頼信は、家の者が騒ぐ声を聞き、起きて、弓矢の支度をし、頼義に声もかけずに、一人で馬に乗って盗人を追った。頼義も、父と同じように一人起きて支度をして盗人を追った。

親は「我が子必ず追ひて来たるらむ」と思ひけり。子は「我が親は必ず追いてさきにおはしぬらむ」[A]と思ひて、それに遅れじと走らせつつ、行きけるほどに、川原過ぎにければ、雨も止み空も晴れにければいよいよ走らせて追ひ行くほどに、関山に行きかかりぬ。

この盗人は、その盗みたる馬に乗りて「今は逃げ得ぬ」[B]と思ひければ、関山のそばに水にてある所、いたくも走らせずして、水をつぶつぶと歩ばして行きけるに[a]、頼信これを聞きて、ことしもそこそこにもとより契りたらむやうに、暗ければ頼義がありなしも知らぬに、頼信、「射よ、かれや」といひける言（こと）もいまだ果てぬに、弓の音すなり。尻答へぬと聞くに合はせて、馬の走りて行く鐙（あぶみ）の、人も乗らぬ音にてからからと聞こえければ、また頼信がいはく、「盗人はすでに射落としてけり。速やかに末に走らせ会ひて、馬を取りて来よ」とばかりいひかけて、取りて来たらむをも待たず、そこより返りければ[C]、頼義は末に走らせ会ひて、馬を取りて返りけるに、郎等（らうどう）どもはこのことを聞き付けて、一人二人づつぞ道に来たり会ひにける。京の家に帰り着きければ、二、三十になりにけり[b]。頼信、家に帰り着きてとやありつる、かくこそあれ、といふこともさらに知らずして、いまだ明けぬほどなれば、もとのやうにまた這ひ入りて寝にけり[c]。頼義も取り返したる馬をば郎等にうち預けて寝にけり。

その後、夜明けて、頼信出でて、頼義を呼びて、「希有(けう)に馬を取られざる。よく射たりつるものかな」[E]といふこと、かけてもいひ出でずして、「その馬ひき出でよ」といひければ、引き出でたり。頼義見るに、まことによき馬にてありければ、「さらば、給はりなむ」とて、取りてけり。[d] ただし、宵にはさもいはざりけるに、よき鞍置きてぞ取らせたりける。[F] 夜、盗人を射たりける禄(ろく)と思ひけるにや。

怪しき者どもの心ばへなりかし。兵(つはもの)の心ばへはかくぞありけるとなむ語り伝へたるとや。[G]

（『今昔物語』）

注　尻答へぬ　…矢などが的に当たったような感じがする。手応えがある。

鐙　…馬具の名。鞍の両わきに垂らして、足を踏みかけるもの。

郎等　…従者。家来。

宵　…昨日の夕方。頼信は「明るい所でその馬を見て、気に入ったら持って行け。」としか言わなかった。

鞍　…馬具の名。馬の背において、人や荷物を乗せる道具。

禄　…褒美。

怪しき者ども　…不思議な理解しがたい者たち。平安時代の貴族から見た武士たちは、まだ不思議な存在であった。

問一　波線部a～dの主語として最も適するものをそれぞれ次の中から選び、マークしなさい。

1　頼信　2　頼義　3　盗人　4　郎等ども

問二　傍線部A「我が親は必ず追いてさきにおはしぬらむ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　私の親は必ず私を追いかけて、先のほうまで行くだろう。
2　私はきっと親を追い抜いて、盗人を先に追い詰めよう。
3　私は親を追いかけていき、その先に盗人を見つけるだろう。
4　私の親はきっと盗人を追いかけて、私の先にいるに違いない。

問三　傍線部B「その盗みたる馬に乗りて『今は逃げ得ぬ』と思ひければ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　自分が盗んだ馬に乗って、「もう大丈夫、逃げられた」と思ったので
2　自分が盗んだ馬に乗って、「もはや逃げ切れない」と思ったので
3　自分が盗んだ馬に乗って、「今頃逃げてしまっただろう」と思ったので
4　自分が盗んだ馬に乗って、「今から逃げよう」と思ったので

問四　傍線部C「頼信、『射よ、かれや』といひける言もいまだ果てぬに、弓の音すなり」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　頼信は「射るぞ、あの辺だ。」と定めをつけて、弓を引き絞った。
2　頼信は「射るぞ、あそこにいる。」と言いながら、弓の音を鳴らした。
3　頼信が「射ろ、あいつだ。」と言うとすぐに、弓を鳴らす音がした。
4　頼信が「射ろ、あそこだ。」と言い終わる前に、弓の音がしたようだ。

問五　傍線部D「取りて来たらむをも待たず、そこより返りければ」とありますが、頼信はなぜそのようにしたのですか。最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　頼信は、馬を頼義にあげるつもりでいたので、盗人さえ倒せば、馬はもう頼義のものだと思ったから。
2　頼信は、鐙のからからいう音から、盗人が射落とされていると思ったが、念のために頼義に確認させようとしたから。
3　頼信は、馬が走って逃げる鐙の音を聞き、頼義に追いかけさせ盗人をつかまえさせようと思ったから。
4　頼信は、人の乗っていない馬のからからいう鐙の音から盗人が射落とされていることを確信し、もう大丈夫だと思ったから。

問六　傍線部E「希有に馬を取られざる。よく射たりつるものかな」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　よくまあ馬を取られなかったなあ。上手に射たものだ。
2　どうして馬を取られずにすんだのか。思い切って射てよかった。
3　珍しい馬を取られずに済んだ。どうやって射たのだ。
4　めでたいことに馬は取られなかったのだよ。盗人は射殺してしまおう。

問七　傍線部F「よき鞍置きてぞ取らせたりける」には、頼信のどのような気持ちを読み取ることができますか。最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　昨晩はつれなく対応したが、日が変わり、息子をいとおしく思えるようになった。
2　名馬にふさわしい鞍を付けて渡すことで、息子に感謝してもらおうとしている。
3　口には出さないが、せっかく盗人から取り返したので、大事に扱ってもらおうとしている。
4　直接言葉をかけて褒めることはしないが、態度で示して功績を評価しようとしている。

問八　傍線部G「兵の心ばへはかくぞありけるとなむ」とありますが、「兵の心ばへ」の内容として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

1　馬に対して強い執着を持ち、それを守ることで、結束力を高めていること。
2　盗人を倒し戦いの腕を磨くことによって、親子の絆を深めようとすること。
3　互いに言葉を交わさなくても、気持ちが通じ合い、信頼し合えていること。
4　活躍を自慢することなく、喜びの感情を表情に出さないように心がけていること。

問九　次の各文のうち、本文の内容に合うものには1を、合わないものには2をそれぞれマークしなさい。

A　頼信は、頼義が自分より先に盗人に追いつくだろうと思った。
B　雨がやんで空も晴れたので、盗人の追跡がしやすくなった。
C　暗くて頼信が来ているのかどうかも分からないのに、まるで前もって約束していたかのように、頼信は頼義に盗人を射るように命じた。
D　頼信は、盗人が水のあるところを馬に歩かせている音から、盗人のいる場所をとらえ、射落とした。
E　頼義は、盗人が乗っていた馬に追いつき、取り返し、馬を連れて帰る途中で多くの郎等たちに出会った。
F　馬を取り返した翌朝、改めて馬を見ると、とてもよい馬だったので、頼義はその馬をもらうことにした。

三　次の各問に答えなさい。

問一　次の熟語の読み方について適切なものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a　台所　b　消印　c　予防　d　作文　e　手紙

1　訓読み　2　音読み　3　重箱読み　4　湯桶読み

問二　次の各文はいくつの単語でできていますか。その個数をそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a　急に予定が変わったので六時には帰ります。

1　八　2　九　3　十　4　十一

b　湖の水は氷のように冷たかった。

1　八　2　九　3　十　4　十一

c　母は絵本を読んでくれた。

1　八　2　九　3　十　4　十一

問三　次の傍線部a～eの品詞名をそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a ある日の事でございます。b 御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでc ぶらぶら御歩きになっていらっしゃいました。池の中にd 咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えないe 好い匂いが、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう。

（芥川龍之介『蜘蛛の糸』）

1　動詞　2　形容詞　3　形容動詞　4　名詞　5　連体詞
6　副詞　7　接続詞　8　感動詞　9　助詞　10　助動詞

問四　次の各文の傍線部はそれぞれどのような語の敬語表現ですか。最も適するものを後から選び、マークしなさい。

a　校長先生が向こうからいらっしゃる。
b　いつもお世話になっている方にお土産を差し上げる。
c　必ず正午までにはうかがいます。
d　式のために新調したものをお召しになる。
e　おっしゃる通りでございます。

1　言う　2　来る　3　行く　4　食べる　5　着る　6　見る　7　与える

問五　次の各文は、ある作品の冒頭部分です。作品名と作者名をそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a　男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり。

b　木曽路はすべて山の中である。

c　親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。

d　いづれの御時にか女御（にようご）更衣あまた候（さぶらう）ひたまひける中に・・・

e　私は、その男の写真を三葉、見たことがある。

作品名

1　源氏物語　　2　夜明け前　　3　土佐日記　　4　人間失格　　5　坊つちやん

作者名

1　紀貫之　　2　太宰治　　3　夏目漱石　　4　島崎藤村　　5　紫式部

問六　次のa～hの傍線部と同じ漢字を含むものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a　自粛生活にタえる。

1　タイマンな態度を取る。

2　英雄としてのタイメンを保つ。

3　タイキュウ性のよい素材を使う。

b　タン酸水を飲む。

1　スミで小さくなる。

2　スミで火をおこす。

3　スミと筆で字を書く。

c　コト更に難しい言葉を使う。

1　シュイロのインクで字を書く。

2　豚にシンジュ。

3　トクシュな能力を持つ。

d　親にプレゼントをオクる。

1　記念品をゾウテイする。

2　人口がキュウゾウする。

3　老婆に対するゾウオ。

e　ウスい金属を加工する。

1　ハクジョウな奴だ。

2　有名なガハクと対談する。

3　ハクシンの演技。

f　相手のクセを見抜く。

1　カンペキな出来栄え。

2　子供のころからのアクヘキ。

3　世界遺産になっているヘキガ。

g　練習を積み重ねて技術をミガく。

1　体がマヒする。

2　マサツで熱をおこす。

3　宝石をケンマする。

h　調子の悪い投手が降バンする。

1　コクバンに絵を描く。

2　ケッテイバンとなる作品。

3　新しいアイスがハンバイされる。